



G サカイ&ナイフマガジンコラボナイフ G.Sakai & Knife Magazine  
「アイダ・トラウト・アンド・バード」 “Aida Trout & Bird”

ブレイド長74mm、ブレイド材銀紙1号、ハンドル材ウッド、非売品。



弊社Oのコレクション。ガーバーのアーモハイドはじめレアなアイテムが多い。



水瓶座の一番下の星が半分なくなっている。使い続け、研ぎ減ったことの証。



当時のナイフマガジンから。限定ナイフは他にも11モデルあったそうだ。

# 【今号の1本】

ナイフは使うことで輝きを増す！

— ナイフマガジン限定ナイフ '87

## 先

だって、ある企画の関連で、弊社のスタッフ数人に愛用のナイフを見せてもらった。その後、企画内容を変えたので、掲載こそできなかったが、使い込まれたナイフが結構な数量集まった。

写真はその中のひとつ、弊社Eの愛用ナイフ。ナイフマガジン創刊してから、毎号計12アイテム作っていた限定ナイフのひとつである。ブレイドの片面に小誌ロゴと、水瓶座をあらわしている。限定100本という希少モデルだったそうだ。

当時の小誌編集部員だったEも購入の上、趣味の溪流釣りに重宝してきた。もちろん他のナイフも数多く使ってきたが、いつの間にかこのナイフに戻ってくるのだと言う。ポイントが鋭く、川魚をさばく際に使いやすいこと、コンパクトに収納できるため、持ち運びしやすいこと、さらに重量バランスとグリップが、手になじみやすいことなどが、自身の好みと合致していると分析する。

釣行のたびに、研ぎ直しながら24年使い続けただけに、ブレイドの形状も変わった。特にわずかにスキナー風に膨らみをもっていたブレイドの曲線部分が、使っていくうちに、自然な曲線でポイントに続くラインに変わっていった。このシャープなブレイドラインになって、魚の処理に特化したナイフに変身した。

使い続けることで、自分だけのものへと変貌していく。使い手と出来のいい「道具」との間でできる幸福な関係がかいま見える1本だ。

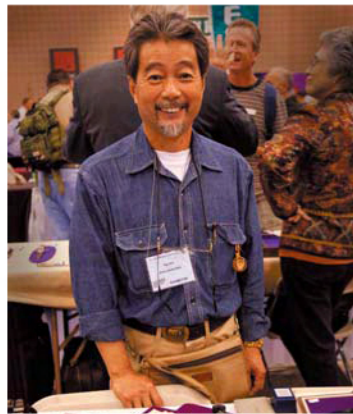
(H)



坂内好夫さん4連覇!



ベテランナイフメイカー坂内好夫さんが、ブレイドショーでなんと4年連続となる“ベスト・ミニチュアナイフ”賞を受賞した。ナイフは“スポーツマンナイフ”と呼ばれるイングランドスタイルのマルチブレイドナイフで、全て削り出し手作業の全長10センチにも満たないミニチュアフォルダーである。複雑な造形を見せるコークスクリューは勿論自作、リーマーから毛抜きに到るまで、全く手抜きのない仕上がりになっている。圧巻はボーンハンドルだ。一見スタッグにも見えるが、こんなにナイフの大きさと縮尺のあったスタッグが存在するわけが無い。もの凄い作り込みである。こうなったら坂内さんには、前人未達の最多連続受賞記録を更新していただきたい。



ブレイドショーの常連、原幸治さん。「実力を問われるショーになってきましたね」



大人気が故に、とうとうその抽選会が会場の外に追い出されてしまったリック・ヒンダー。それでも毎年新製品を引っ提げてくる彼には、人気メーカーたる意気込みがうかがえる。

今回紹介したナイフメイカー諸氏は、他の有名メーカー共々ほぼ完成した人達で、アダム・デスロジャースのように3千から8千ドル級の大型鍛造ナイフを中心に作っている人もいて、アメリカナイフ界の懐の深さを証明してくれた。この状況がいつまで続くかは誰にも判らないが、これほどの話題を振りまいてくれるブレイドショーというのは、やはり外すわけにはいかないナイフの祭典であるというのを実感した次第である。

「初日に、ラプレス・ドロップポイントを手に入れることが出来た。来た甲斐があったね」とまあ、カスタムメイカー/ディーラーにとってはいわば暗黒を分けた、そしてバイヤーにとってはお目当てのナイフを安く手に入れることの出来た、悲喜こももものショウになったようだ。

ここに来て、タクティカルスタイルのナイフ達はほぼ出揃い、あとはそのクオリティと値段、そして斬新なテイストが程よくバランスしていないと見向きもされないという、望ましくも厳しい状況になってきたといえる。そして携帯性に難がある大型シースナイフは新製品が少なく、堅牢に作られたミディアムサイズから3.4インチブレイドまでの小型シースナイフ、または大き目の頑丈な徹フォルダーに人気が集まってきているようだ。



Louis Krudo  
ルイス・クルード

鍛えられた拳と筋肉、そしてこの面構えからも判るように、ルイス・クルードはかなりのレベルにあるマーシャルアーティスト(格闘家)である。1990年代にフィリピンスタイルの武道と出会い、以降いくつかの流派を習得しながら独自のスタイルを確立していく。「ここで必要に迫られてデザインしたのが、この一連のナイフなんだ。それぞれのカーヴ、シェイプ、全てに意味がある」。勿論、ナイフを作っている時間以外には、これらのナイフを使った格闘術のクラスも教えている。ルイスは“カランビット”という言葉は一切使わなかったが、これらがその“進化型クルードスタイル”であるのは明らかであろう。 <http://www.snagtool.com/>



M.M.F. (上) HAIKU (下)  
鋼材はS30V。このデザインに到るまで、相当数のプロトタイプが存在している。



SNAGette  
“スナゲット”

スナッグの小型軽量バージョンが、このスナゲットである。チタン、アルミ、ステンレスの3バージョンがあり、ネックナイフとして携帯できるカイデックスシリーズが付属している。



SNAG Fix Live Blade

これがルイスのオリジナルデザイン“SNAG”だ。ツールとしての完成度は高い。



これがスナゲットのホールド方法その1。どういう効果があるかは、いくつも想像できる。エッジの無い“コントローラー”というモデルもある。



# 「平安時代からの化粧道具を作り続ける」

Yoshiyuki KURITA, the bladesmith of the Japanese Tweezers

## 毛抜き 倉田 製作所

写真：三原久明／文責：編集部（H）

倉田義之さんは、毛抜き製作の老舗、倉田製作所の三代目。毛抜きは清少納言の「枕草子」にも「有難きもの」。(中略)毛のよく抜くる銀(しろがね)の毛抜き」と登場するほどの長い歴史を持つ道具。

その名の通り、眉や髭などの毛を抜いて、姿勢格好を整えるための化粧道具として主に使われて来た。両方の刃が合わさる「口」の部分は、毛を切る事なくしっかりと挟む必要がある。いわゆる刃物とは少し違うカテゴリーだが、その製作工程は、刃物道具とほとんど変わることのない鍛造道具だ。

鎌などの品揃えの良さで知られる「うぶげや」の毛抜きを一手に製作する倉田さんに、倉田製作所と、本人の歴史、そして毛抜き造りについて語ってもらった。

### 三代百三十六年の歴史

そうですね、毛抜きを作り出して私で三代目になります。明治8年からですから、もう100年以上になりますね。創業したのは、祖父の米吉郎(よねきちろう)です。どうして毛抜きを始めたのかは分からない

もなかなか手に入らなかった。ステンレスの材料も簡単に買える訳じゃない。仕方ないから端切れを寸法に合わせて買って来て。大変だったね。

でもね、人の倍働いてやろうと思っていました。学童疎開で、ほんとに苦労したから、人間変わったんですね。おふくろに「これから迷惑かけないからね」って言ったくらいだから。まあ、やっぱり子どもはいちど親元を離れなきゃだめですね。

### 三代目修業時代

昭和25年に今のところ(荒川区)に来ま

んです。その前の代は、彰義隊の侍だったんです。場所は浅草で始めたんですね。

私の親父、福太郎が二代目。うぶげや(注…)東京の人形町にある老舗の刃物屋。毛抜きや鎌などの品揃えが良い事で知られる)で毛抜きの作り方を教わったんです。あそこは、昔は毛抜きを作っていたんですね。そこで、

した。それから10年、15年っていう頃は、「はやくまわりに追いつこう」という気持ちが強くて、朝5時頃から叩き始めていました。「あいつはにわとりを起こす男だ」って友達に言われてねえ笑。でも実際、毎日、3時間くらいしか眠れなかったね。

結婚もして30歳も過ぎたと思ったら、今度は腎臓病をわずらっちゃった。医者に行ったら入院しなくちゃだめだった。

でも入院したら仕事ができない。そう先生に訴えたら、俺の言う事聞けば治る、動物性のたんぱくは絶対だめ、塩気もちよつとだけ、味噌醤油は食べちゃだめ。それが

親父が当時のご主人にいろいろと高級品の作り方を教えてもらったんですね。祖父も作っていたけど、やはり老舗の技術を正式に習おうとなったんでしょうね。明治29年生まれ親父が子どもの頃から通っていたというから、明治時代のことですよ。それから高級品を中心に手がけて来ました。

私が仕事を手伝い始めたのは、終戦直後の昭和21年頃、中学生の時ですよ。その前、小学校6年の時に学童疎開で東北に行ったんです。それでね、いろいろと苦労してね、子どもなりに。それまで私一人っ

できれば入院しないでいい、と。それで2年間、塩気も肉もアルコールも断って治したんですよ。治り出した時に、先生が、刺身のトロを食べてみなさい、って食べて検査したら腎臓は大丈夫だった。それで少しずつ食べるものが増えていってね。まあ、おいしいのなんのって(笑)。その頃も休まずにめちゃめちゃ働いていたからね。

倉田製作所の毛抜きの特徴? まあ、一生使えるってことだね。使っていくうちに調子がおかしくなっても、無料で修理しますし。きれいにみがきなおして、刃先を「合

子で甘ったれていたんです。それが、下級のボタンをつけたり、おねしょ布団を干したりしなくちゃいけなくなった笑。それで、東京に戻ると、大空襲で家が焼けてしまった。それで家族でおふくろの実家の新潟に行ったんですね。中学2、3年生になつたら学校から帰ってくれば、親父の手伝いをしていましたね。金もないし、家も焼け出されたから、うちの仕事をやるのが当たり前だっと思っていましたね。

終戦直後はね、どんな品でも売れたんです。ただ材料がないから大変だった。戦前は鉄で作っていたのが、戦後はステンレス。でわせて」元に戻すんです。あとは、30くらい工程あるんだけど、ひとつも手を抜かないところかな。ひとつずつきちっと順々に積み重ねて行かないといけないのはできないですね。親父も「絶対に手を抜いちゃいけない、念には念を入れろ」って口をすっぱくして言っていましたね。

親父はあんまり教えなかったね。結局見て覚えるしかなかった。親父くらいになると、ハンマーでも、やすりをかけるのも音だけで、まだまだだなんて分かるんだよ。でも手にとって教えてはくれない。自分がやったのを、親父がだまってる直すんです。「ここを直さないといいじゃない。文句は言われないけど、これは厳しかった。

しばらくそうやっていっているうちに、新潟県五泉市の絹織物屋さんから注文が来た。反物のほつれを直すための毛抜き。毛抜きの口が合わない、反物が駄目になるからいいものを、ということだった。その注文を受けた親父が私に「作ってみろ」って。それで作って送ったんですね。そうしたら向こうで大変喜んでくれてね。これはいいですね。五泉市には反物屋が何件もあって、みんな毛抜きに困っていたから、譲りたい、と何十本か追加で注文してもらって。その時初めて親父が「よくできたな」って。昭和30年代のことでしたね。

しばらくしてね、こういう高級品もいけど、安い品物を大量に作ってくれという注文がきたんですね。ハンマーでやすりかけてやっていたら、できる数ははれていく。でも問屋さんは、0の桁が2つも3つも違う数が欲しい、となったんですね。そこで自分なりに考えて、機械を導入したんです。親父は「俺にはこういうスタイルでの生産はできないよ」って言いながら、全部任せられました。



口のすりあわせには、十分に手をかける。この工程を終えると刃同士がぴったりと合わさり、挟んだ毛が切れない「毛抜き」が完成する。



最もスタンダードな毛抜き「いろは」。ひらがなの「い」に似ているところからそう名付けられた。9000円弱が基本で様々なタイプが揃う。



# ダイヤモンドブレイド

フリクション・フォージド・テクノロジー



ブレイドに超硬の鋼を回転させて押し付ける。  
そんなユニークな熱処理を行なったブレイドを使ったナイフは  
ハンティングに造詣の深いメイカーが、満を持して送り出した、  
ヘヴィーデューティーな「実用ナイフ」だ。

文・写真：ヒロ・ソガ Text & Photos: Hiro SOGA



## Traditional Hunter

### トラディショナルハンター

全長8.5インチ、ブレイド長3.57インチ、  
ブレイド材フリクション・フォージD2 (NP3  
フィニッシュ)、ハンドル材ラムズホーン、  
454ドル (公式サイトでの価格：以下同)。

有名ナイフメイカーであるウェイン・ゴダ  
ード氏デザインによる、ドロップノースピ  
アポイントブレイドを持つハンティングナ  
イフである。ブレイドには“NP3”という表  
面処理が施されており、錆びやスクラ  
チが出来にくくなっている。

## スーパーブレイド

切れる。

昨年、初めて「ダイヤモンドブレ  
イド社(以下DBとする)のモナー  
クイモデルを手にした感想は、こ  
の単純かつ率直なものだった。と  
にかくカミソリ並みにシャープな  
のである。勿論、腕のウブ毛など  
ほとんど抵抗も無く剃れてしまう。  
エッジをよく見ると、小刃(刃を付  
けてある部分)の幅が普通よりやや

広く、より鋭角に、それも丹念に  
砥ぎ上げられているのが判る。第  
一印象は、この切れ味が、ハード  
に使った場合どのくらい持続する  
のだろうか、という疑問だった。  
「はあ、その顔はシャープ過ぎ  
ると思っっているな。ナイフは切れ  
るに越した事はないぞ。刃持ちが  
心配なんだろう? ノープロブレ  
ム! とにかく使ってみな。何せ  
「スーパーブレイドだからな」  
このナイフを預けてくれたダー

ウッド・ホリスは、なにやら含みの  
ある笑顔で言う。彼は根っからの  
シリアスハンターで、リタイアし  
てからは一年の内八週間以上はハ  
ンティング三昧の日々を送ってい  
る。

「ワシは昨シーズン、このクラシ  
ックハンター一本だけでこなして  
きた、これまでにディア(鹿)を  
八頭、ワイルドボア(野生豚)を四  
頭処理したが、いまだにウブ毛が  
剃れるぐらいだ。コイツは凄いで」  
これは、はっきり言ってちよっ

と信じ難い。私はハンターではな  
いが、食い意地が張っているので  
ゲームの解体にはしばしば付き合  
ってきた。鹿肉のハーフ焼きはち  
よっとしたものだし、野豚のしょ  
うが焼きなど想像しただけでも延  
モノだからだ。だからといってし  
まえば元も子もないが、食い気  
に勝てずスキニングを手伝う羽目  
になったのは一度や二度ではない  
のだ。

いちどは、某メイカーの最新作  
S30Vブレイドのナイフをハンタ  
ーグループに試してもらった事  
がある。このときは、ディアを三  
頭、タッチアップもなしで処理出  
来て驚いた覚えがある。通常のス  
テンレスブレイド、例えば154  
CM鋼のナイフだと、二頭め半ば  
あたりで切れ味が落ちてきて、少  
なくともタッチアップしたくなり、  
三頭めには軽く砥ぎを入れたくな  
ってくるのが普通だからだ。これ  
が、獲物がワイルドボアになると、



Charles Allen  
チャールズ・アレン

“ナイヴズ・オブ・アラスカ”社長、“ダイヤモンドブレイド”責任者にして、現役のアラスカ・ハンティングガイド兼パイロットでもあるスーパーマンが、チャールズ・アレン氏だ。アラスカでのハンティング行となると、持ち込む全てのツールが命にかかわってくるものとなる。ライフル、ナイフ、ハンドガン、衣類、生活用品といった道具や必需品のそれぞれに最高のクオリティが要求される。「これまでのハンティングには、現地でシャープニングをしなくても済む様、常に数本以上のナイフを持ち込んでいたんだ。どんなに切れるナイフでも、数頭のゲームを処理するとタッチアップが必要になってくる。随分前から、せめて3週間のハンティングトリップの間は、シャープニングをしなくても使い倒せるナイフが欲しかったのさ」。

## フリクション フォージド プロセス

“摩擦鍛造”といわれてもピンと来ないが、この写真を見ると氷解する。まず、下半分中央、シルバーにブルーのストライプが入りつつあるのが、ブレイド材だ。上部の逆台形に見えるのがツールヘッドで、この部分が高速回転しながらブレイド材に圧着されつつ、移動していく。金属と金属が高速で擦れあうのだから、当然摩擦熱が発生する。また写真をよく見ると、このツールが通過した跡には、高熱で融けた擦過面と金属の削りカスが見える。これは擦過面の深さからいっても、かなりの高圧でツールが押し付けられていることが判る。このツールの材質、硬度、回転スピード、圧着具合、移動スピードが“キモ”なのだが、ともあれ、この工程を経ることによってD2材は大変身してしまうのである。“高温”と高圧、まさに金属を赤めて叩く鍛造と同じプロセスであるのが理解できる。





NEXT  
**ナイフマガジン**2011年12月号は  
 2011年10月29日発売です

# ナイフマガジン

# KNIFE

2011.October No.150  
 発行人 今井今朝春  
 編集人 桜井 謙人  
 発行所 株式会社ワールドフォトプレス  
 〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
 ☎03-5385-8111 (代表)  
 ☎03-5385-5648 (編集部直通)  
 印刷所 大日本印刷株式会社  
 DTP 有限会社ベイス/株式会社三協美術  
 発行 2011年10月号 第26巻 第5号  
 (通巻152号)  
 定価 1050円(本体価格1000円)  
 (送料290円)  
 ©WORLD PHOTO PRESS 2011  
 本誌掲載の写真、イラストおよび記事の無断転載を禁じます。

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

### バックナンバー購入方法

バックナンバーのご注文は、最寄りの書店にお申し込みください。郵送を希望される方は代金と送料を郵便為替にてお申し込みください。郵便局に備え付けの払い込み票に口座番号00190-7-582639、加入者名(ワールドフォトプレス)を記入し、通信欄にバックナンバーの誌名、月号、冊数をお忘れなく明記してください。ナイフマガジンの送料は1冊290円、2冊以上は販売部に直接お電話でお問い合わせください。お急ぎの場合は宅急便の代金引換をご利用できます。

お申し込みにはインターネット<http://www.monomagazine.com/>もご利用できます。なお、2007年6月号までは売り切れです。何とぞご了承ください。

●〒164-8551  
 東京都中野区中野3-39-2  
 ワールドフォトプレス販売部  
 ☎03-5385-5701

### BACK NUMBER



**2009年10月号 定価1050円**  
 ●SPYDERCOの魅力●アトランタ・ブレイドショー2009●ウィリアムW. スケイゲル●カスタマイカー田邊一希●Impression SOG●カザン・ブレイドショー●はたらく刃物特別編 当世指先事情、他



**2009年12月号 定価1050円**  
 ●カスタマイカー 松田菊男●スケイゲル・コレクション2●SPYDERCOの魅力 Part2●銀座ナイフショー●千代鶴屋秀と過去の名工たち●Impression MCUSTA●日本鍛冶紀行 関東牛刀、他



**2010年2月号 定価1050円**  
 ●2010年度版 研ぎ大全●知られざる小刀の魅力●カスタマイカー山本徹●チャールズ・ワイス●JKGナイフショー●TAKE FIVE! シベリアナイフ●はたらく刃物特別編 燧燧中の先駆け、他



**2010年4月号 定価1050円**  
 ●2010年度版 包丁大全●カスタムメイカー 武藤美彦●福田正孝&島田英丞作「Eagle Wing」●オリジナルスを作ってみよう●伊原賢治●東京鍛冶 板金球●日本鍛冶紀行 広瀬重光金物店、他



**2010年6月号 定価1050円**  
 ●根本朋之●エレン・ハリス●安永朋弘●JKG鍛造ナイフ部会●東京フォルディングナイフショー●マール「セーフティ・ハンティング・ナイフ」●東京鍛冶 包丁●はたらく刃物 井川メンバ、他



**2010年8月号 定価1050円**  
 ●浜田智成●ジェフ・ホール●今映治郎●JCKMカスタムナイフショー●ソルバンク・ナイフショー●リック・ヒンダー●土田昇次甲野善紀対談●東京鍛冶 諸道具●日本鍛冶紀行 片桐鋼造/深溝砥石、他



**2010年10月号 定価1050円**  
 ●福田正孝●平山晴美 新作ナイフ●ビル・ルーブル●黒澤次夫●レスキューナイフカタログ●銀座ナイフショー●ナイフアート・ドットコム●東京鍛冶 丸戴ち包丁●日本鍛冶紀行 深澤やすり店、他



**2010年12月号 定価1050円**  
 ●追悼R.W.ラブレス●2010プレイドショー●日野野司●KNIFE IMPRESSION安永朋弘●奈良定守●レミントン・ボーイスカウトナイフ●POL FORCE●東京鍛冶 花紋●はたらく刃物 笹野一刃、他



**2011年2月号 定価1050円**  
 ●R.W.ラブレスその作品と足跡(ラブレスナイフ・フォトギャラリー)●追悼「ボブ」ラブレス/ラブレス、その人と作品を語る/発展を続ける日本のカスタムナイフ●はたらく刃物 雨城権枝、他



**2011年4月号 定価1050円**  
 ●宮野一郎●ラブレス工房の今 ジム・メリット●タクティカルナイフ・インヴェンション●鈴木伸明●KNIFE IMPRESSION ガーバー・EVO / オプシディアン●東京鍛冶 鉋●はたらく刃物 臼、他



**2011年6月号 定価1050円**  
 ●災害時に役立つナイフとその使い方●はたらく刃物「手のちから」ナイフと、それに関わる人たちができること●ダーウッド・ホルス●銀座ナイフショー●山本宣弘●東京鍛冶 ちょうな、他



**2011年8月号 定価1050円**  
 ●鉋をいこうなす!! ●オーダメイドのランチャーナイフ●ダイエール・ファブリアン●磯村康太●スイスアーミーナイフ「タイタニウムライン」●Knife Expo 2011●はたらく刃物 船大工、他

### ナイフマガジン定期購読のご案内

毎号、送料無料で確実にお届けします!  
 お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方は、便利な定期購読をご利用ください。

■購読料金  
 1年間 (6冊) **6,300** 円(税込)

- 新規定期購読のお申込方法
- ①お電話で (新規申込み専用ダイヤル)  
 フリーダイヤル 富士山 富士山  
 ☎0120-223-223 (年中無休24時間営業)
  - ②PCサイトから  
<http://fujisan.co.jp/knife-magazine>
  - ③携帯電話から  
<http://223223.jp/m/knife-magazine>
  - ④QRコードから  
 上記QRコードからアクセスしてください。

■お問合わせ  
 雑誌のオンライン書店 / \Fujiisan.co.jp  
 カスタマーサポート  
 PC : <http://fujisan.co.jp/cs> または  
 MAIL : [cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp) にお問合わせください。

- 注意事項
- お申込みは / \Fujiisan.co.jp とのご契約となり記載の利用規約に準じます。
  - お支払いのタイミングによってはご希望の開始日が後になる場合がございます。
  - お届けは発売日前後の到着を予定しておりますが、配送事情により遅れる場合がございます。
  - 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

### FROM EDITORS 【編集後記】

●ひさしぶりにカルピスを口にした。もしかして「カルピスウォーター」の発売(91年)以来かもしれない。取材先でお欲に現われた懐かしのカルピスはやっぱり風鈴のような音で耳にも涼を届けるふと思いつくのは「誰なんちのカルピスが流れたの薄いだの、牛乳で薄めるのは邪道だの、麦茶で薄めたらうまかった…」など、小学生のころの夏のカルピス談義。さて、意外だったのはそのお味だ。甘い記憶とはほど遠いすっきり感。甘ったるく子供の飲み物と思っていた舌は軽く裏切られた。美味いぞカルピス。しかも乳酸菌がこの時期弱ったお腹にも好都合。というわけで、この日からすっきりマイブーム。携行ボトルにキンキンに冷やされた薄めカルピスは40オトコの隠れた猛暑対策なのでした。(桜井)

●じゃあほくはこの夏、何度も飲んだラムネ話を。ラムネの歴史、なかなか面白いんです。日本には九州から江戸時代に持ち込まれたのですが、明治になって国内でたくさん作られるようになります。炭酸の清涼感と滅菌作用が好まれて、国民的飲料に。なんと戦艦大和の中にも「ラムネ製造機」があったそうです。ちなみにラムネの名は「レモネード」がなまったもので、サイダーは林檎風味の炭酸飲料「シードル」から来たそう。そして、強引につなげるのは毛抜きで倉田製作所。創業は明治だからラムネといま一緒に歴史があります。口をびたりと合わせることで、うぶ毛も抜ける。試しに朝剃った短い髭を挟んで引っ張ると、痛みもなくすっと抜けて驚かされました。日本人の繊細な感性が生み出したラムネと毛抜きの話でした。(服部)